

平成28年度第1回人間文化研究機構経営協議会 議事概要

○日 時：平成28年6月9日（木） 14:00～15:40

○場 所：自然科学研究機構及び情報・システム研究機構合同会議室

○出席者：立本機構長、青柳、今西、榎原、岡田、影山、小池、小長谷、小松、佐藤、須藤、弦間、武田、平川、藤岡、宮崎、望月、森、安成の各委員

○陪席者：小泉監事、二ノ宮監事、大崎機構長特別顧問、青山歴博副館長

○事務局：監査室長、歴博管理部長、国文研管理部長、国語研管理部長、日文研管理部長、地球研管理部長、民博管理部長、本部事務局総務課長、同企画課長、同財務課長、同施設課長、同企画課課長補佐、同財務課課長補佐、その他関係職員

○概 要：

議事に先立ち、機構長からの挨拶、新たに就任した委員、監事の紹介があった。

また、事務局から、定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認があった。

議 題：

(議事概要)

(1) 平成27年度第6回議事概要について (資料1)

機構長から、平成27年度第6回経営協議会議事概要について、議事概要署名人に確認いただいた旨報告があり、本協議会の同意を得た。

また、平成28年度第1回経営協議会の議事概要署名人として、影山委員及び岡田委員が選出された。

(審議事項)

(1) 平成29年度概算要求について (資料2)

平川理事から、資料2に基づき、平成29年度概算要求について説明があり、審議の結果、了承された。

また、本件に係る今後の取扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

なお、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・国立科学博物館で行った国際シンポジウムにおいても、環境問題等について、人文学や社会学も含めた形でトータルとして考え始めている。このことは人間文化研究機構の研究領域にも重なるところがあるため、そのことも視野に入れて、国立科学博物館等との協力も進めてはどうか。
- ・展示機能を活かして発信していくのであれば、利用者のニーズや要望を十分に調べるとともに、利用者目線で展示を考えていく必要があるのではないか。
- ・2020年オリンピックにおけるインバウンドマーケティングを意識した事業を検討してはどうか。
- ・国立科学博物館と地球研が行った共同企画展のように、縦割りの枠を取り払った事業を実現していただきたい。
- ・情報発信については、関連する研究者コミュニティだけでなく、異分野、場合によっては産業界に

も発信していくことが重要であり、そのためには様々な手法を検討していくことが必要ではないか。

- ・機構から郵送される刊行物等を見ると、内容は非常に高度であるが、一般の者が見ても非常に興味深いものがある。最近、自治体が行っている町おこしや地域振興に係る様々な催しとの連携していくことが可能かと思われるため、より情報を発信し、自治体等との連携の取組も検討してはどうか。
- (2) 平成27事業年度及び第2期中期目標期間における業務の実績等に関する評価について (資料3)
- 小長谷理事から、資料3に基づき、平成27事業年度及び第2期中期目標期間における業務の実績等に関する評価について説明があり、審議の結果、了承された。
- また、本件に係る今後の取扱いについては、機構長一任とすることが了承された。
- なお、本件に関し、以下の意見等があった。
- ・人材育成に関しても特色ある取組を行っているため、全体的な状況や特色ある取組に追記してはどうか。
- (3) 平成27事業年度決算について (資料4)
- 平川理事から、資料4に基づき、平成27事業年度決算について説明があり、審議の結果、了承された。
- なお、本件に関し、以下の意見等があった。
- ・人間文化研究機構においては、人材が非常に重要な資産であるが、その一方で、人件費を削減していかざるを得ない。そのためにも、準備に時間がかかるかと思われるが、生産性を向上させるため、IT技術の導入を含めた長期的な計画が重要ではないか。
- (4) 平成28年度監事監査計画について (資料5)
- 小泉監事から、資料5に基づき、平成28年度監事監査計画について説明があり、審議の結果、了承された。
- (5) 国際日本文化研究センターの副所長2名体制について (資料6)
- 平川理事から、資料6に基づき、国際日本文化研究センターの副所長2名体制に伴う関連規程の改正について説明があり、審議の結果、了承された。

(報告事項)

(1) 総合人間文化研究推進センターの事業概要について (資料7)

機構長から、資料7に基づき、総合人間文化研究推進センターの事業概要について報告があった。

(2) 総合情報発信センターの事業概要について (資料8)

佐藤理事から、資料8に基づき、総合情報発信センターの事業概要について報告があった。

なお、本件に関し、以下の意見等があった。

- ・事業実施に当たって、定量的な評価及び定性的な評価があるかと思うが、共に重要であるので、十分に検討し進めていただきたい。
 - ・客観的に定量化できる部分は定量化を進めていただきたい。また、人間文化研究機構は、人が財産であるため、人件費が増えることが悪いことではないが、管理部門などでIT技術を活用することで合理化し、コストカットを進めてはどうか。
- (3) 人間文化研究機構業務方法書の変更認可について (資料9)
- 平川理事から、資料9に基づき、人間文化研究機構業務方法書の変更認可について報告があった。
- (4) 大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について (資料10)
- 平川理事から、資料10に基づき、大学共同利用機関法人における会計監査人の選任について報告が

あった。

(5) 人間文化研究機構主要会議委員について (資料 11)

機構長から、資料 11 に基づき、本協議会、教育研究評議会、本協議会及び教育研究評議会から選出する委員で構成する会議委員について報告があった。

(6) 第 28 回人文機構シンポジウムについて (資料 12)

佐藤理事から、資料 12 に基づき、第 28 回人文機構シンポジウムについて報告があった。

(7) 平成 28 年度人間文化研究機構経営協議会開催日程について (資料 13)

機構長から、資料 13 に基づき、経営協議会開催日程及び開催場所について報告があった。

(8) その他

機構長から、機構長へのインタビューが掲載された新聞記事について紹介があった。

以上、この経営協議会議事概要を確認し、以下に署名捺印する。

平成 28 年 8 月 25 日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

署名人 委 員 _____
影 山 太 郎

署名人 委 員 _____
岡 田 泰 伸